

第112期 事業のご報告

株主通信

2021年4月1日～2022年3月31日

株式会社 椿本チエイン

証券コード | 6371

株主・投資家の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2021年度の連結業績について

2021年度の連結業績は、売上高2,158億円、営業利益178億円（営業利益率8.3%）となりました。

先進国をはじめとした新型コロナウイルスに対するワクチン接種の進展、各国の経済政策などにより、世界の景気が回復傾向となったことなどから前年度比11.6%の増収。営業利益についても、増収に伴う売上総利益の増加などにより、同100.5%の大幅な増益となりました。

連結業績ハイライト

売上高	2,158 億円	前年度比 11.6% ↗
営業利益	178 億円	前年度比 100.5% ↗
親会社株主に 帰属する 当期純利益	145 億円	前年度比 67.0% ↗
1株当たり 配当金	120 円	前年度比 60.0% ↗

2022年度の連結業績予想について

2022年度も景気の回復傾向は継続するものと考えておりますが、新型コロナウイルス感染再拡大、地政学的リスクの高まりによる材料不足や素材価格の高騰が懸念されるなど、先行きは不透明な状況にあります。

これらの要素を踏まえ、通期連結業績予想を以下のとおりいたしました。

連結売上高：2,400億円（前年度比11.2%増）、営業利益：200億円（同12.1%増）

新経営体制について

本年6月29日の株主総会およびその後の取締役会決議を経て、古世憲二が代表取締役会長兼CEOに、木村隆利が代表取締役社長兼COOに就任いたしました。



代表取締役会長
兼 CEO
古世 憲二

代表取締役社長
兼 COO
木村 隆利

当社グループは新会長・新社長のもと、「中期経営計画2025」で策定した戦略を着実に実行し企業価値向上に努めてまいります。また、「Linked Automation（つばきが狙う自動化を目指す領域）」により社会課題の解決と自らの成長の両立を目指してまいりますので、株主の皆様には、より一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

前代表取締役会長兼CEOの逝去について

本年4月12日、かねてより療養中の当社前代表取締役会長兼CEOの大原靖が逝去いたしました。

大原前会長は、2015年6月より代表取締役社長兼COO、2021年6月からは代表取締役会長兼CEOとして、約7年にわたり当社グループを牽引し社業の発展に努めてまいりましたが、この間における株主の皆様からのご厚誼に深く感謝申し上げますとともに、謹んでお知らせいたします。



略歴

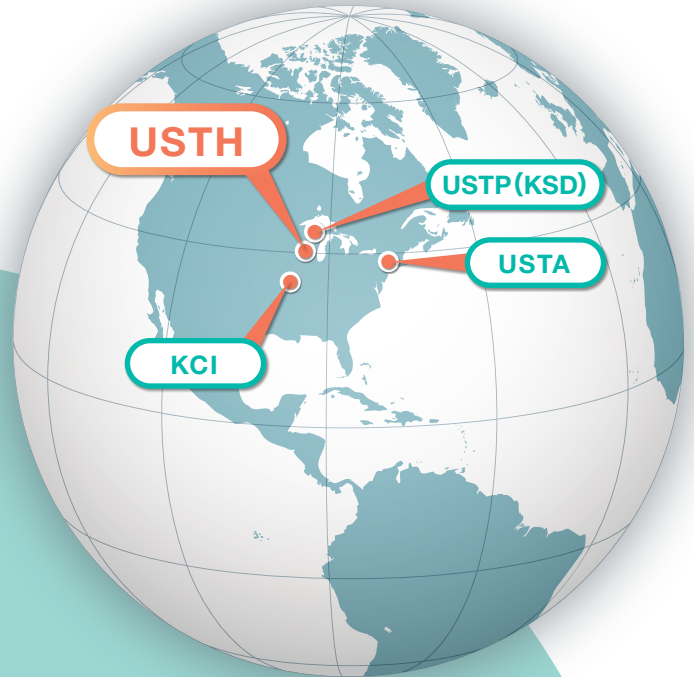
1982年4月	当社入社
2008年7月	Tsubakimoto Singapore Pte. Ltd. 社長
2013年4月	当社社長室長 兼 経営企画センター経営企画室長
2013年6月	当社執行役員
2014年6月	当社取締役執行役員
2015年6月	当社代表取締役社長 兼 COO（最高執行責任者）
2021年6月	当社代表取締役会長 兼 CEO（最高経営責任者）

つばきグループ最大の子会社



U.S. Tsubaki Holdings, Inc.

つばきグループ最大の子会社である米国のU.S. Tsubaki Holdings, Inc. (以下、USTH)は、北米進出の拠点として1971年に設立されました。現在では、本社機能を担うUSTHの傘下にU.S. Tsubaki Power Transmission, LLC (パワートラ事業: チェーン&モーションコントロール)、U.S. Tsubaki Automotive, LLC (モビリティ事業)、U.S. Tsubaki Industrial, LLC (マテハン事業)、右ページで紹介のKCI, Incorporatedほか8社を擁し業容を拡大、事業統括の戦略に基づく事業活動をタイムリーかつスピーディーに展開し企業価値向上に寄与しています。



独自の強みを生かしたソリューション提供により つばきグループの成長を支えています。

USTHは昨年、創立50周年を迎えました。創立以来、私たちは「競合他社ではできない顧客の問題を解決する」という方針のもと、企業が直面していた多くの課題解決に貢献することで、顧客の信頼を勝ち得てきました。その結果現在では、北米における産業用チェーンの製造・販売でNO.1という確固たる地位を築いています。

私たちは創立当初から、マーケットで独自のポジションを維持しながら、つばきの日本的なDNAと米国流のアグレッシブなマネジメントを融合させた社内文化を構築することに努めてきました。この両者のベストコンビネーションを追求し、中期経営計画2025の達成に向けて取り組んでいきます。

USTHは、産業用チェーンの製造・販売会社から、自動車エンジン用タイミングチェーンの製造・技術・販売に強みを持つ総合グループへと成長し、市場をリードしています。今後は、マテハン事業でも同様の強みを発揮させ、事業拡大に注力していきます。

Kevin Richard Powers

株式会社椿本チエイン 上席執行役員 米州パワートラ・マテハンビジネス担当
President, U.S. Tsubaki Holdings, Inc.

モビリティ事業

U.S. Tsubaki Automotive, LLC (USTA)

【マサチューセッツ州チコピー】

1987年、ゼネラルモーターズ社の新型エンジン開発に協力したのがUSTAの始まりです。現在では、北米のすべての自動車メーカーとその子会社にタイミングチェーンシステムを供給しています。設立当初から、顧客とともに開発・研究、初期設計、テスト・分析に取り組み、高品質な製品を供給することで信頼を勝ち得てきました。今後は、EV向けに開発したエネドライブチェーンやカムクラッチなどにより、多様化するモビリティに対応していきます。



Neil Casey

Director of Operations

マテハン事業

KCI, Incorporated (KCI)

【ミズーリ州カンザスシティ】

ミズーリ州カンザスシティに本社を置くKCIは、ガラス繊維断熱材、自動車、家電の大手メーカーを顧客に持ち、プロセス機器やコンベヤなど保管・搬送システムのエンジニアリング、ソリューションを提供することで顧客より高い評価を得てきました。業況は好調で、本社工場だけでは旺盛な需要に応えるには手狭になってきたため、拡張を予定しています。

なお、カンザスシティはウォルト・ディズニーの最初のアニメーションスタジオがあり、1972年からは日本の倉敷市と姉妹都市になっています。



Doug Barton

Vice President

パワトラ事業

U.S. Tsubaki Power Transmission, LLC (USTP) Kabelschlepp Division (KSD)

【ウィスコンシン州ミルウォーキー】

USTPはホリヨーク工場とサンダスキー工場とで産業用スチールチェーンを製造しており、今回ご紹介するミルウォーキー工場では、ケーブルベヤを製造しています。ケーブルベヤは工作機械やロボット、自動車など広範囲で使用されており、電源ケーブルや制御ケーブルを保護し、その動きをガイドする製品です。同工場とオフィスでは、すべての照明をLEDに交換しました。LED化はメンバーに明るい職場環境を提供し、二酸化炭素排出量の削減に貢献します。



Bryan Shaw

Operations Manager

ちょっと寄り道

ミルウォーキーはこんな街

ミルウォーキーには、ウィスコンシン州で最も古く、大きなクラフトビールの醸造所の一つであるレイクフロント・ブルワリーがあります。ミルウォーキー川のほとりにあるこの醸造所では、ツアーやその他の興味深いイベントが開催されています。

ミルウォーキーに本拠地を置くミルウォーキー・ボックスは、2021年、50年振りとなるNBAチャンピオンシップのタイトルを獲得しました。「ボックス」とは日本語で牡鹿の意。

名前のとおり躍動感あるプレーに現地社員は夢中です！頑張れボックス！



チェーン事業

産業用スチールチェーンは世界シェアNo.1

モノ動くところに「チェーン」あり。国内外のあらゆる産業、用途に応じ、世界シェアNo.1の産業用スチールチェーンをはじめとした約2万種類の豊富なラインアップから最適なチェーンを最高の品質と最短の納期でお届けしています。

【主要商品】

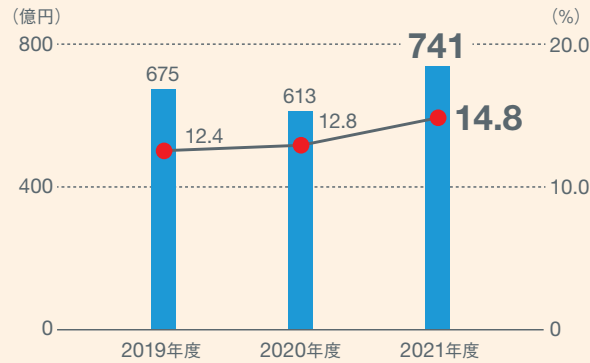
ドライブチェーン、コンベヤチェーン、スプロケット、ケーブル・ホース支持案内装置など

シェアは当社調べ

セグメント別売上高構成比*1

33.5%

売上高*2/営業利益率



モーションコントロール事業

減速機、直線作動機などの豊富な商品群

「Motion & Control」の分野で、独自の複合化技術と豊富な品揃えを生かし、産業機械の複雑な動きを精密にコントロールするモーションコントロール商品群。舞台の昇降装置や立体駐車場、アーケードの屋根開閉、風力発電や駅ホームの可動柵など、日常生活のさまざまなシーンでも活躍しています。

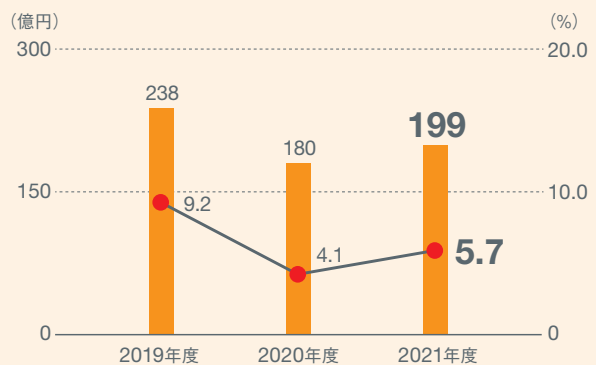
【主要商品】

減速機、直線作動機、軸継手、締結具、クラッチ、モジュールなど

セグメント別売上高構成比*1

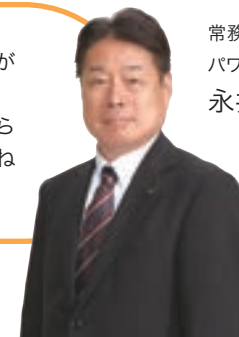
9.0%

売上高*2/営業利益率



2021年度の概況

チェーン事業につきましては、日本、米州、欧州、環インド洋、中国、韓国・台湾の全地域で販売が好調であったことから、前年度比で増収となりました。モーションコントロール事業につきましても、環インド洋を除く地域で販売が増加したことから前年度比で増収となるなど、パワトラ事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から概ね回復し、好調に推移。利益面でも前年度を大きく上回りました。



常務執行役員
パワトラ事業統括
永井 康詞

モビリティ事業

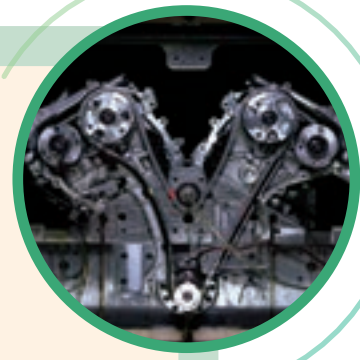
エンジンの高性能化を支える タイミングチェーンシステム

自動車エンジンの高性能化、エコ化に寄与するタイミングチェーンシステムで、国内69%、世界38%とトップシェア。日本、米国、英国、タイ、中国、韓国、メキシコ、チェコの各拠点から供給されるその品質と技術は、世界の自動車メーカーから高い信頼を獲得しています。

【主要商品】

タイミングチェーン、テンショナ、ガイド、レバー、スプロケット、トランスファー用チェーン、APクラッチなど

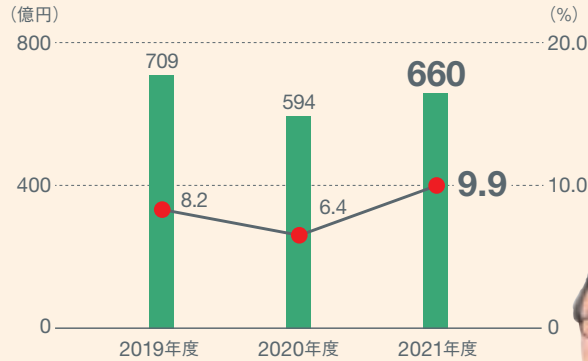
シェアは当社調べ



セグメント別売上高構成比*1

30.6%

売上高*2/営業利益率



2021年度の概況

半導体不足による自動車生産への影響、鋼材価格の上昇などの不確定要素は多かったものの、日本、米州、欧州、タイ、中国、韓国の各拠点において自動車エンジン用タイミングチェーンシステムなどの販売が増加したことから、前年度比で増収増益となりました。



モビリティ事業統括
上席執行役員
佐藤 功

マテハン事業

生産性向上に寄与する ソリューションを提供

物流センターにおける自動仕分け装置は、国内シェア70%超。また、超低温自動保管庫「つばきラボストッカ®」は、創薬やDNAなどの研究に寄与しています。その他、自動車塗装ライン搬送設備や粉粒体搬送コンベヤなど、お客様の生産性向上に寄与する高度なソリューションを提供しています。

【主要商品】

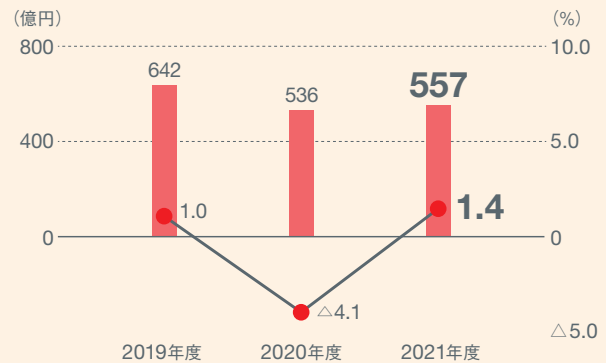
物流業界向けシステム、自動車業界向けシステム、ライフサイエンス分野向けシステム、粉粒体搬送コンベヤなど

シェアは当社調べ

セグメント別売上高構成比*1

25.8%

売上高*2/営業利益率



2021年度の概況

日本国内において物流業界向けや新聞印刷工場向け、ライフサイエンス分野向けシステム、などの売上が増加したことから、前年度比で増収となりました。利益につきましても増収に加え、米国子会社の収益性改善などにより黒字に転換いたしました。

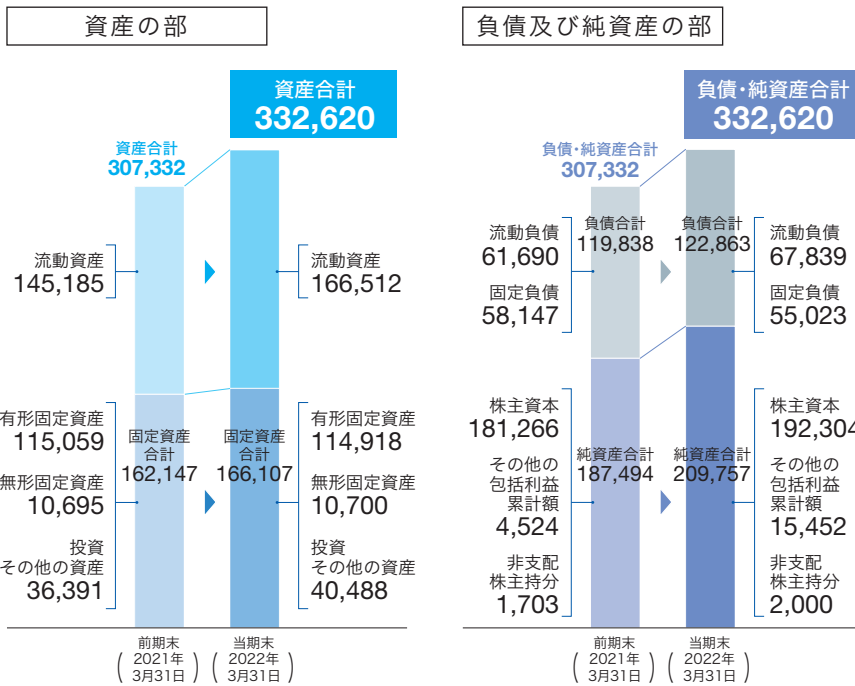
上席執行役員
マテハン事業統括
岡本 雅文



*1 セグメント別売上高構成比は「外部顧客に対する売上高」を基準に算出しています。 *2 売上高には「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。
*3 2021年度よりビジネスの一部をモーションコントロール事業からモビリティ事業に移管しております。2020年度の数値も当該変更を反映しております。

連結貸借対照表の概要

(百万円)



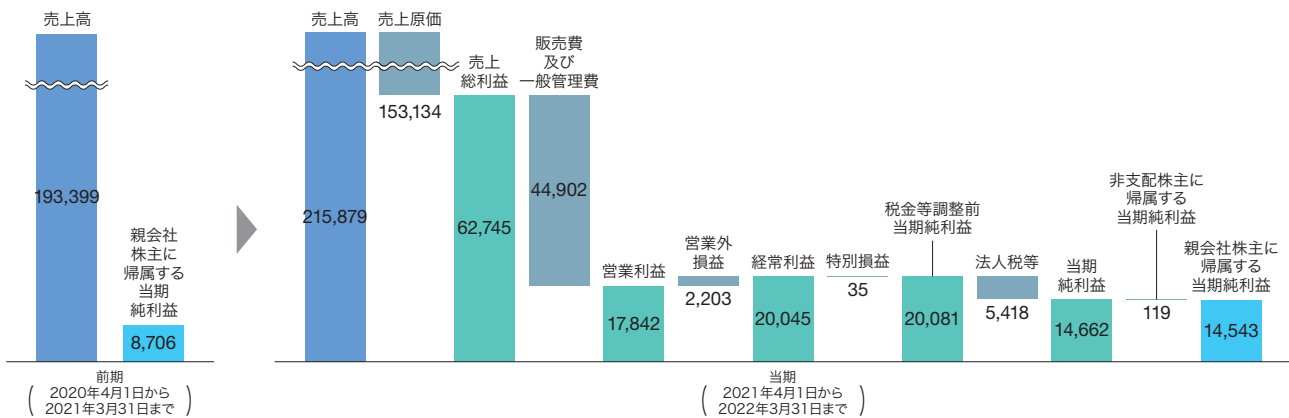
さらに詳しい財務データは、
当社ホームページの
「IRライブラリ」をご覧ください。

ツバキモト IR

<https://www.tsubakimoto.jp/ir/library/>

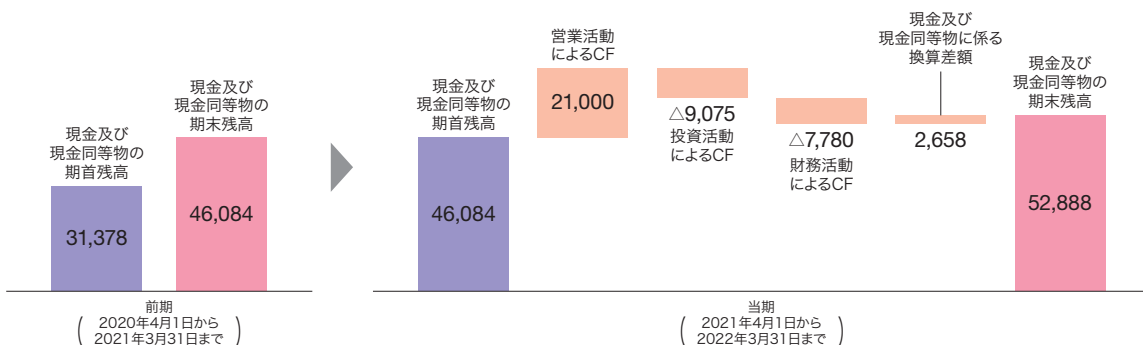
連結損益計算書の概要

(百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(百万円)



新社長のご紹介

「従業員一人ひとりが生きがいを持ち働ける」 企業グループを目指します



このたび、代表取締役社長兼COOに就任いたしました^{きむらたかし}木村隆利です。株主の皆様にご挨拶申し上げます。

つばきグループは、2021年度に「2030年のありたい姿（長期ビジョン2030）」と、そのアクションプランである「中期経営計画2025」を策定、スタートさせました。

長期ビジョンで掲げた、「売上規模5,000億円企業」の達成に向けて、「お客様への対応力」、「現場力」という強みをさらに強化し、既存成長、変革成長を図るとともに、新事業開発に注力し新規成長を加速させてまいります。

2022年、当社は「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」提言および「国連グローバル・コンパクト」への賛同を表明いたしました。

100年余年のモノづくりで培った基盤を磨き上げるとともに、人権、労働、環境、腐敗防止に向けた活動を積極的に展開し、「人にやさしい社会の実現」「安心・安全な生活基盤の構築」「地球にやさしい社会の創造」という社会課題の解決に貢献することで、さらなる成長を目指してまいります。

また、つばきグループを大原前会長の思いでもあった「従業員一人ひとりが生きがいを持ち働ける。勤めてよかったと思える」そんな企業へと導きたいと考えております。

ステークホルダーの皆様への感謝の気持ちを忘れず、古世会長とともに既存事業の成長と新規事業の開発・育成に注力してまいりますので、株主の皆様には、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
兼 COO

木村 隆利

【プロフィール】

1983年 4月 当社入社
2006年10月 チェーン事業部営業統括海外部長
2015年 6月 執行役員、橋本鍵条(上海)有限公司 董事長
2016年 6月 執行役員、経営企画センター長
2018年 4月 執行役員、マテハン事業統括マテハン事業部長
2018年 6月 上席執行役員、マテハン事業統括マテハン事業部長
2020年 4月 常務執行役員、マテハン事業統括
2021年 6月 取締役
2022年 6月 代表取締役社長 兼 COO(最高執行責任者)(現任)



つばきのCSR

「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」提言への賛同を表明

2022年3月24日

当社は、2022年3月に「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD[※]）」提言への賛同を表明いたしました。気候変動への対応は、喫緊の社会課題であると同時に、当社グループの中長期経営計画における最重要課題でもあります。リスクの低減と機会の獲得に注力するとともに、TCFDが推奨する「気候変動が与えるリスクと機会」の関連情報について、積極的な開示を推進していきます。

当社グループは、環境関連の中長期目標を設定し、事業活動におけるCO₂排出量削減やエコ商品（環境貢献型商品）の創出など、従来より気候変動への対応に取り組んできました。今回の賛同を機に、いっそうの活動強化を図り、地球環境保全はもとより、持続可能な社会の実現と当社グループの持続的成長につなげていきます。

※TCFD：Task Force on Climate-related Financial Disclosures

会社概要

商号 株式会社椿本チエイン
 本店所在地 大阪市北区中之島3丁目3番3号
 設立年月日 1941年(昭和16年)1月31日
 資本金 17,076百万円
 工場 京田辺・埼玉・長岡京・兵庫・岡山
 支社 東京・名古屋・大阪
 営業所 大宮・豊田・大阪北・広島・九州
 関係会社 連結子会社：64社 非連結子会社：9社
 関連会社：8社(うち、持分法適用関連会社2社)
 従業員数 連結8,566名 単体2,937名
 (従業員数には契約社員、パート、アルバイトを含んでおります。)

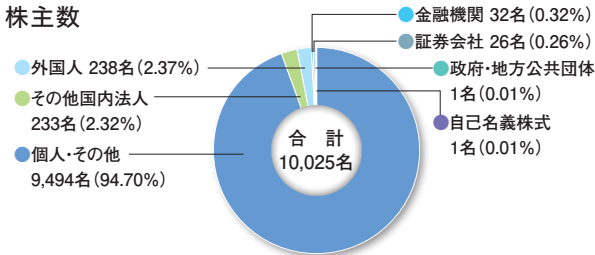
役員 (2022年6月29日現在)

代表取締役会長兼CEO	古世 憲二	上席執行役員	Kevin Richard Powers
代表取締役社長兼COO	木村 隆利	上席執行役員	揚田 利浩
取締役	宮地 正樹	上席執行役員	石田 裕美
取締役	阿部 修司(※1)	上席執行役員	井上 幸三
取締役	安藤 圭一(※1)	上席執行役員	岡本 雅文
取締役	北山 久恵(※1)	上席執行役員	佐藤 功
常勤監査役	田中 浩司	執行役員	西井 久雄
常勤監査役	川崎 加寸也	執行役員	堺和 伸光
監査役	碩 省三(※2)	執行役員	熊倉 淳
監査役	内藤 秀文(※2)	執行役員	丹山 太
常務執行役員	永井 康詞	執行役員	明坂 泰宏
常務執行役員	中村 一智	執行役員	川上 修
		執行役員	前田 隆雄
		執行役員	藤村 昌由
		執行役員	中久保 克也

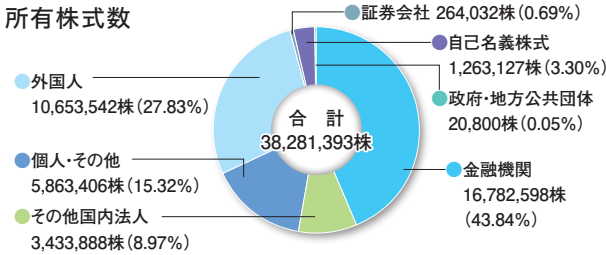
(※1)取締役のうち阿部修司氏、安藤圭一氏および北山久恵氏は社外取締役です。
 (※2)監査役のうち碩省三氏および内藤秀文氏は社外監査役です。

株式の所有者別分布状況

株主数



所有株式数



株式の状況

発行可能株式総数 59,800,000株
 発行済株式の総数 38,281,393株
 株主数 10,025名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,835千株	13.06%
太陽生命保険株式会社	3,559	9.61
日本生命保険相互会社	1,773	4.78
椿本チエイン持株共栄会	1,563	4.22
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,526	4.12
椿本興業株式会社	1,158	3.13
株式会社三井住友銀行	1,000	2.70
三井住友信託銀行株式会社	849	2.29
株式会社りそな銀行	667	1.80
株式会社三菱UFJ銀行	641	1.73

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 当社は、自己株式1,263,127株を所有しておりますが、上記大株主には含めておりません。
 3. 持株比率は、自己株式1,263,127株を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031(フリーダイヤル) ※取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
公告の方法	当社のホームページに掲載 (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載)

株主の皆様へのお知らせ

各種手続のお申出先

▶ 住所変更、配当金の受け取り方法のご指定、
 単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

区分	お申出先
証券会社でお取引をされている株主さま	株主さまの口座のある証券会社
特別口座(証券会社に口座のない)の株主さま	三井住友信託銀行株式会社 (上記、電話照会先をご参照ください。)

特別口座について

株券電子化の手続(証券会社の預け入れ)が済んでいない株式は、特別口座にて管理されています。特別口座は株式を売買するための取引口座ではありませんので、株式の売却の際は、あらかじめ証券会社の口座へ振り替えておく必要があります。詳細は、三井住友信託銀行株式会社(上記、電話照会先をご参照ください。)にお問い合わせください。

未払配当金の支払について

三井住友信託銀行株式会社(上記、電話照会先をご参照ください。)にお問い合わせください。

株主通信(事業のご報告)に関するお問い合わせ先

経営企画室 経営企画課

06-6734-6676

株式会社 椿本チエイン

<https://www.tsubakimoto.jp/>

椿本チエイン

検索

